



国土交通省 富山河川国道事務所 所長

福濱方哉さん

楽しい街には、
世界中から観光客
が集まってくる！

ピープル
People

2000年4月に着任した久保田勝元所長の支援で、2003年に開催された「川と街づくり国際フォーラム」。フォーラムによって2005年4月完成した松川茶屋の階段式カフェテラスは、「ロマンチック」と全国から注目を集める。その場所から、福濱所長に富山の未来を語っていた。

ふくはま・まさや●

昭和38年6月生まれ、岡山県出身。平成元年3月、東京大学大学院工学系研究科土木工学専攻修了。平成元年4月、建設省入省。建設省建設大学校、文部科学省研究開発局、国土交通省国土技術政策総合研究所海岸研究室等を経て、平成20年4月、北陸地方整備局黒部河川事務所長。その後、ダム水源環境整備センター、国土技術政策総合研究所河川研究部を経て、平成28年4月、北陸地方整備局富山河川国道事務所長。「平成20年の寄り回り波災害の復旧が、富山赴任の契機です。富山は山、川、海のつながりを実感できるまち。まち巡りを楽しんでいます」

「富山への転勤が決まり、さっそく

検索すると、松川遊覧船が大変有名でした」とニコリ。今年4月、富山で3年目の春を迎えた。「松川の桜を3回も見れるなんて、本当に幸運です」。松川茶屋のカフェテラスで、世界中から訪れる観光客が遊覧船を楽しんでいる様子を見て、「人間って、人が楽しんでいるのを見ると、自分も楽しくなるんですね」

松川遊覧船は屋根がないので、乗客が楽しんでい

の様子がそのまま見え、それを見ようとたくさんの方が集まって来て、ドイツ・ブランドのように賑わっている、と分析する。

海岸工学を専攻、「海岸の浸食も、波の表面の流速を計ると、何年でどう変化するかわかるんです」。人一倍研究熱心である。

「立山・黒部に来た観光客が、素通りして金沢へ行く、と。それなら反対に、金沢に来た人を、松川遊覧船を使って「富山市内と呼び込む」。その仕組みを考え

ることです」

台湾では、「日本の松川遊覧船で桜のトンネルをくぐってから死ぬ」ということわざがあるそう。

「松川遊覧船に乗って感動した人が、友達や知人に、『良かったよ！』と紹介する。ネット社会ですから、全国、世界に発信されることで、金沢に負けない「観光都市」に発展できるはず」

国交省も支援する「かわまちづくり」。「街づくり」のキーワードは、やる気！。その街にしかない「魅力」を発見し、その「宝を磨いていく」ことに尽きる。「国も、やる気のある自治体を支援しますので、市民の皆さんもガンバってください」